

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム ほろむい(げんき荘)	評価実施年月日	平成21年7月1日～平成21年7月31日
評価実施構成員氏名	増田 朋子・加藤 晴美・土田 康平・鈴木 佳依・大久保 智美・中井 章子 げんき荘		
記録者氏名	増田 朋子	記録年月日	平成21年8月14日

北海道

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		<p>地域の催し物だけでなく、町内会で定期的に行われている、草刈りや花壇の手入れなどにも積極的に参加していきます。</p>
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>外部評価の結果を合わせ、現在入居されている方々にとって、何が最善であるかを職員全員で検討し、可能な限り改善できるよう努めている。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>2ヶ月に一度、定期的に運営推進会議を行っており、地域に根ざしたグループホームのあり方等を念頭に置き、会議出席者の方々との話し合いで、出された意見を活かせるよう努めています。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>運営推進会議の議事録やグループホームのお便りを届けたりと、こまめに顔を出し、その都度、運営上の疑問点や問題点などを話をさせていただき、市との繋がりに努めている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>現在、ご利用者で成年後見制度の下、生活されています。今後、この制度を活用するご利用者も増えることも想定され、職員全員が制度についての知識を学ぶために、ユニット会議で資料を参考に話し合いをしている。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>ユニット会議において、随時、虐待防止について各スタッフが話し合い理解している。また、暴力行為がある方の対処法(制止の仕方)等を話し合い、声掛けも含めて虐待行為が発生しないよう努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>ご利用者やご家族に契約内容を時間を掛け解りやすく説明しており、その後に疑問点を話し合い、ご利用者やご家族に理解・納得していただいたうえで、最後に契約者・重要事項説明書に署名・捺印を頂いている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご利用者・ご家族との会話の中で、思っていることや不満等の意見が聞き出せるような雰囲気を作り、また、コミュニケーションを心掛けている。 そのような意見が聞かれて際には都度、その場で対応できるものは対応し、対応できないものについては、全体会議にて話し合い、その結果を後日報告するよう努めている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	隔月でグループホーム便りを発行し、生活状態、行事などのお知らせすると共に、来荘時には、個々にお話をさせて頂いています。 また、体調の変化はその都度、電話や来荘時に、ご家族様に状態・結果を報告しています。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	設置した苦情箱やご家族様からの直接、意見・不満・苦情をいただき、その都度、施設長・管理者・職員で対応策を検討し、出来るだけ早く業務に反映させる。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	・ホーム長会議にて各ユニットの問題点、新規申し込み者の判定、行事等の話し合いを行う。 ・ユニット会議はケアカンファレンスが中心となっている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	必要な場合、管理者や職員間の話し合いで、シフト変更などで状況に合わせた勤務調整を行っている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	ユニットスタッフは6名～7名からなり、基本的には固定としているが、異動や離職の場合に備え、外出行事や屋内行事などの全体行事を通じて、他のユニット利用者及び他職員との交流を図っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>		
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けた段階で、ご本人・ご家族双方の話を細かく聞き取り、事前情報を踏まえながら、全職員で「どうしたらご本人が安心して過ごせるか」を話し合い、話し合いの結果をご本人・ご家族に確認の上、対応している。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご家族に確認後、事前訪問などで入所前から顔見知りの関係を作りよう努めている。安心した環境で生活していただけるように、今まで使っていた馴染みの家具や寝具をなるべく使用していただけるよう、ご家族にお願いし使用している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	ご利用者ができる範囲の中で、職員と一緒に料理の下ごしらえや、洗濯物たたみ等を職員と協力のもと、していただいている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご利用者の日常生活の様子をご家族が来所時や電話で報告し、その都度、ご家族と職員で、ご本人の現状を踏まえて安心して過ごせる環境作りを一緒に考えて、ご家族ご了承のもと対応している。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	職員は、ご利用者・ご家族、それぞれの状況を把握し、それぞれの思いや考えを踏まえ、より良い関係が保たれるよう努めている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	職員は親しみやすい雰囲気作りを心掛け、再度訪問しやすいよう努め、ご家族だけでなく、知人や近隣の方の訪問にも対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	ご利用者同士でスムーズな会話の交流ができる様に職員が間に入り会話をしている。 また、居室で過ごす時間が長い方にも、職員がプライバシーに気を付けながら、訪室して会話を楽しんだり、共有スペースへの誘導を促している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	ご利用者が退所された後でも、ご家族の相談に乗り対応を行っている。 また、その方が入院されている場合でも合間を見計らって、お見舞いにも伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の希望や意向が、その場で対応できるものであれば即座に対応し、困難な場合は職員間で話し合い、必要とあれば、ご家族と連絡を取って出来るだけ、ご本人のご希望に添うように心掛けている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所前より事前に、ご利用者・ご家族より今までの生活歴をお聞きし、ユニット会議にて職員が全員把握している。 また、入居されてからも、ご本人との会話の中に出てくる新しい情報も、職員全員に伝達し把握している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	常に、ご利用者の行動に気を配り、体調や状況の変化に即座に対応できるよう把握し、職員間で連携をとるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご利用者・ご家族の意見や要望を事細かに話し合い、ご本人が1番安心して暮らしやすい計画の作成を心掛けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>		
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>		
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	提携しているクリニックドクターの定期的な訪問診療を受け、24時間連絡体制が取れており、緊急時に素早く対応できる体制を整えている。 また、ご本人、御家族が希望するかかりつけ医への受診にも対応している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症の専門ドクターはいないが、ご利用者・心療内科のドクター・ご家族・職員と、ご利用者の情報を共有しながら、内科医に受診・往診・治療・処方を受けられる支援を行っている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所として看護師1名・准看護師2名が勤務している為、掛かりつけのドクターまたは提携クリニックのドクターに健康管理、状態の変化など随時相談し支援を行っている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には必ずお見舞いに行き、ご利用者の状態把握し、ドクター・相談員及びご家族とコンタクトを取り、情報を共有しながら早期退院及び退院後の受入れ体制などを相談し連携をしている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	一般状態に異変が見られる時は、今後の方向性を兼ね、常にご家族に報告や意見を聞きながら、必要時にはドクターよりのムンテラ(説明)をして頂き、今後、重度化・終末期の対応をどうするかを、ご家族・ドクター・看護師・介護スタッフと相談・検討し対処している。	○	入居されている方も年々高齢化が進み、重度化ギリギリの方の対応はしているが、ユニットにおいては、ターミナルの経験はなく、必要となった際キチンとした対応ができるのか不安である。 今後、発生することを考慮し、そのための準備として、職員個々のスキルアップを目指し、経験者を交えたユニット会議や研修への参加を考えている。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ターミナルを迎えるにあたり、施設側でご利用者が混乱無く、安心して過ごせる為の準備検討を、ドクター・看護師・介護スタッフと連携を取りながら、ご家族と話し合い支援している。	○	ユニットにおいては、ターミナルの経験はなく、必要となった際キチンとした対応ができるのか不安である。 今後、発生することを考慮し、そのための準備として、職員個々のスキルアップを目指し、経験者を交えたユニット会議や研修への参加を考えている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>今までの生活環境・支援内容・注意点について情報提供をしっかりと行い、今後のご本人に影響が出ないように連携に努めている</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>職員全員がご利用者のプライバシー保持を常日頃念頭に置き介助にあたっている。トイレ誘導等、他のご利用者様に気取られないように、さりげなく声をかけ、ご本人を傷付けないよう配慮している。</p>		
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>普段よりご利用者とのかかわりの中から、そのご利用者の表現の仕方を把握し、ご利用者一人ひとりに合わせた声掛けをし、なるべくご本人が理解し決定していただく様努めている。</p>		
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>基本的な1日の流れに、ご利用者のペースや希望、その日の体調に合わせて、時間に縛られる事がなく過ごせるよう努めている。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>ご利用者の希望する美容院がある場合は送迎等の支援を行っている。また、女性の場合には顔そりやお化粧・マニキュア等、希望に添えるよう対応している。</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>ご利用者の残存機能を活かしながら、ご利用者一人ひとりに合わせた、お食事の準備や後片付けを職員が考え、出来る限り一緒に行えるよう努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	基本的にご利用者の希望にあわせた対応し、喫煙などは、ご家族の同意の下、職員が管理させていただき、希望があれば、職員が他のご利用者に迷惑の掛からないよう換気のよい場所で喫煙して頂いている。 飲酒に関しては、普段より飲まれる方はいませんが、お神酒など、季節を感じていただく行事では少量飲まれています。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	ご利用者の排泄時間や習慣、その日の体調を把握し、その都度、個々に合わせたトイレ誘導を行っている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	基本的な予定は職員が計画を立て決めているが、ご利用者の希望や体調等により、職員が臨機応変に対応している。 また、月1回近郊の温泉に希望者のみではあるが職員付き添いのもと外出している。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	入居者個々の生活リズムを整え、穏やかな状態で就寝して頂けるよう心掛けている。 また、不眠の強い方には、生活リズムを安定していただく為、かかりつけ医に相談した後に薬で調整する等も行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	ご利用者の体調に合わせ、個々の能力を生かした形で出来そうな仕事を支援している。 また、外出行事や催し物など施設内外で楽しんで頂けるよう、毎月提供している。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理ができる方は、ご家族了承のもと、ある程度金銭を所持していただいている。 また、管理の出来ない方でも2週間に1度買い物の日を設定しており、希望のある際には職員が支援して購入できるようにしている。 その他、外出できない方に希望がある際は、職員が代行して購入をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日には、職員が声掛け誘導をおこない、ご利用者の希望や体調に合わせて散歩又は中庭での日向ぼっこ等をを行っている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	戸外での行事では、ご利用者にも計画の段階から参加していただき、お話し合いからの雰囲気作りや声掛けで、ご利用者が積極的に参加できるよう支援している。歩行状態の悪い方や車椅子の方でも外出が出来るよう、事前に無理のない場所・計画を立て、実行している。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族の負担にならない様に、ご利用者の訴えに応じ電話の取り次ぎを行っている。また、お手紙などの希望があれば対応している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	来訪者が気兼ねなく過ごして頂けるような、ユニット内の雰囲気づくりに普段から気を配り、ご利用者や職員が明るく出迎えるように心掛けている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員全員がホームの方針に従い、身体拘束は一切行わないケアを正しく理解し、ユニット会議内でも話し合い、実践している。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	ホームの方針により、ご利用者の生活時間帯での玄関の施錠は行わない。ご利用者の居室についても鍵は設置されていますが使用はせず、常日頃からのご利用者の動きを把握し、出入りが分かるように工夫している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	ご利用者一人ひとりの生活パターンを職員全員が把握しており、生活の変化に注意し、プライバシーに配慮しながら見守りを行っている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	ご利用者の状態に応じてご本人が自室で管理され、使用する際は職員がプライバシーに気を付けながら、さりげなく見守りや声掛けをして注意を払っている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	定期的にユニット会議にて事故報告書・ヒヤリ・ハット報告書の事例を用いて話し合い、職員全員に注意事項の再確認や再発防止・事故防止に努めている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	スタッフ全員、消防署の協力により普通救命講習(Ⅱ)を受講し、応急手当・AEDの使用方法を理解している。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	非常灯設置、災害時の避難経路、場所、担当が決められ、年2回の消防訓練を行い内1回は消防職員立会いのもと、全体避難訓練を行っている。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	ご利用者の現在の状態や今後予想されるリスクについて、ご家族に介護支援専門員も交えて、今後の対応策をご家族の了承を得ながら話を進めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	ご利用者の日常的な行動や状態を職員全員が把握し、体調変化や異変を発見した際は、施設看護師に報告し、かかりつけ医と連絡を取りながら対応している。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個々の服薬内容の理解、支援と服薬後の確認に努める。 また、処方内容の変更・追加等の場合、随時、処方箋を確認し服薬後の状態観察をしている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	牛乳や乳製品は、毎日提供されており、個々に水分量・排便のチェック、コントロールを行い、状態を把握している。 散歩や階段運動など適度に運動を毎日行っている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	ご利用者の状態に合わせ、歯磨きの指導・口腔清拭用(スポンジブラシ・下ブラシ)・義歯洗浄(夜間洗浄剤にて)を行っている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	ご利用者に合わせた栄養士による栄養バランスの取れた食事の提供をしている。 ご利用者の個々の嗜好に合わせて、代替したり、水分量をチェックすることで1日トータルで確保できるよう支援している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対応マニュアルが整備されており、ご利用者・ご家族・職員・来訪者の方には、手洗い消毒の実施を義務付けられている。 また、インフルエンザの予防接種を、ご利用者・職員は毎年受けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食材に触る前には必ず手指の洗浄・消毒を行い、調理の際は三角頭巾・調理専用エプロンの着用を義務付けている。 また、調理後は調理用具・食器の煮沸消毒や消毒液で行い、食器は翌朝まで殺菌庫で保管し、冷蔵庫は週に1度必ず庫内を消毒し衛生管理に努める。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	建物周囲には花壇や畑があり、観賞したり、日光浴するためのベンチを設け、雰囲気作りをしている。 建物内にも花を飾ったり、ご利用者の作品を飾り、親しみやすい雰囲気作りをしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	防音に気を配り、カーテンや照明で光の調整を行う。 また、季節ごとに壁面を彩り、季節感を出したり、ご利用者の行事参加写真や作品を飾り工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	TV周りに、全員がくつろげるソファがあり、そこでTV鑑賞や会話を楽しんだり、レクリエーションなどをして楽しむ場所である。 また、キッチン前にベンチと小窓前に椅子があり、それぞれ1人で居られるスペースを確保している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居の際、ご家族には出来るだけ、ご本人に馴染みの深い家具や生活用品を居室に持ち込まれるよう説明し、安心できる空間を作るよう心掛けている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	空気清浄・殺菌装置を設置する事で、空間の設備は保たれている。 冷暖房の装置・加湿器の設置、窓の換気など、全職員はユニット内の環境やご利用者の体調など考慮して、個々のニーズに対応している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ユニット会議において個々の身体機能を考慮して、ソファや食卓テーブル等、その時の状況に応じて配置換えこまめに行ったり、手すりの活用と見守りで、安全に生活できるよう努めている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	居室入り口には、ご本人の名前の書かれた手作り表札が置いてあり、また、所用の場所もわかりやすく表示し、ご利用者の混乱を防いでいる。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ベランダには、ご利用者と一緒に植物を植えた物があり、ご利用者・職員が成長を見て楽しんだり、散歩に出たり日向ぼっこ等して、気分転換を図っている。		

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない
96 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)